

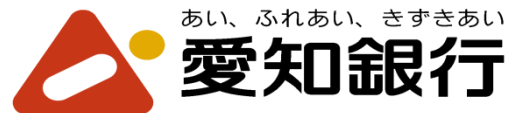
第 15 回 会 社 説 明 会

(2016年3月期決算)

～ 地域に根ざし、地域社会の発展に貢献していきます ～

2016年5月27日(金)

株式会社 愛知銀行
取締役頭取 矢澤勝幸



目次

I 当行の概要について

- 当行の概要 ……4
- 当行の特徴 ……5

II 決算概況について

- 2016年3月期損益状況 ……7
- 資産・負債の状況 ……8
- 貸出金の状況 ……9
- 預金の状況 ……10
- 利鞘の状況 ……11
- 役務取引等収益の状況 ……12
- 経費およびOHR ……13
- 有価証券の状況 (1) ……14
- 有価証券の状況 (2) ……15
- 有価証券運用戦略 ……16
- 信用コストの状況 ……17
- 自己資本の状況 ……18
- 資本政策 ……19
- 第9次中期経営計画の総括 ……20

III 第10次中期経営計画について

- 10次中計の全体像 ……22
- 10次中計の計数計画(1) ……23
- 10次中計の計数計画(2) ……24
- 10次中計の計数計画(3) ……25
- コア業務純益のシナリオ ……26
- 2017年3月期の見込み ……27
- 営業体制の確立 ……28
- 個別戦略(法人戦略) ……29
- 個別戦略(個人戦略①) ……30
- 個別戦略(個人戦略②) ……31
- 個別戦略(市場運用戦略) ……32
- 店舗戦略 ……33
- 最後に ……34

<資料編>

- 参考資料



※当会社説明資料では、計数は原則として単位未満切捨てにて表示しております。

ただし、構成比、増減につきましては、端数を調整して表示しているものを含んでおります。

I 当行の概要について

当行の概要

株式会社 愛知銀行

- 創業 明治43年9月
- 頭取 矢澤 勝幸
- 資本金 180億円
- 発行済株式数 10,943千株
- 預金残高 2兆6,646億円
- 貸出金残高 1兆6,843億円
- 従業員数 1,671人

格付の状況

A+

(日本格付研究所)

愛知県を中心とした店舗展開



- 岐阜県 ●●●●
- 三重県 ●●
- 静岡県 ●
- 東京都 ●
- 大阪府 ●

店舗数

愛知県	98カ店
(うち名古屋市)	48カ店
岐阜県	3カ店
三重県	2カ店
静岡県	1カ店
東京・大阪	2カ店
合計	106カ店

愛知県内シェア(国内銀行)

	(14/3)	(15/3)	(16/3)
預金	7.52%	7.39%	7.20%
貸出金	8.76%	8.69%	8.75%

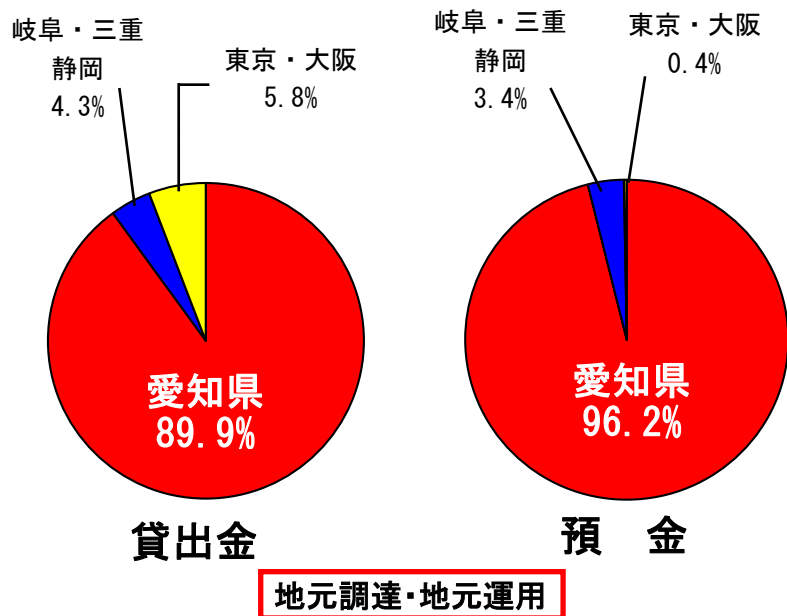
(出所：日本銀行都道府県別預金貸出金)

(2016年3月末現在)

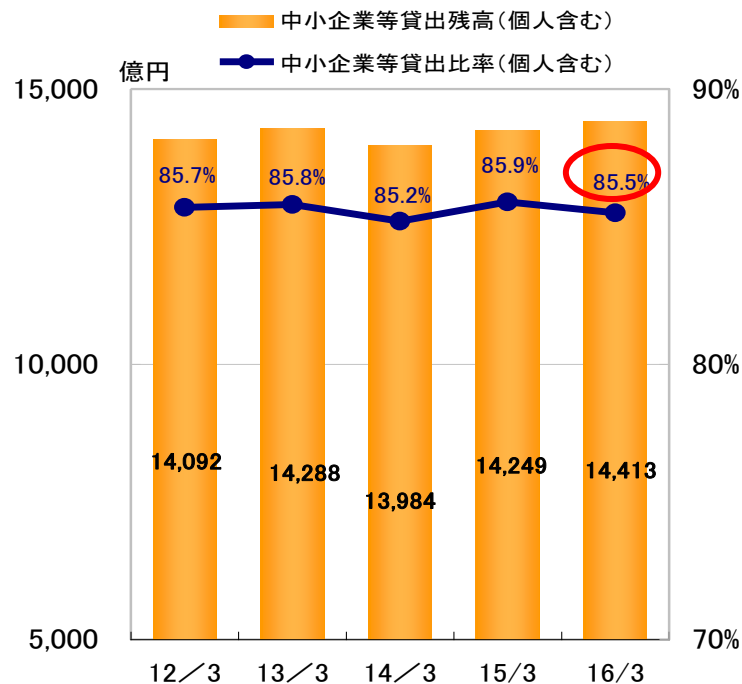
当行の特徴

- 「堅実経営」を創業以来一貫した経営理念とし、今後も堅持していきます。
- 中小企業等(個人を含む)のお客さまを主体とした、地元中心の営業に徹しています。

地区別預貸金残高比率



中小企業等 (個人含む) 向け貸出残高の推移



Ⅱ 決算概況について

2016年3月期損益状況

【単体】		14/3期	15/3期	16/3期	15/3期比	
1	業務粗利益	354	351	338	△ 13	
2	(コア業務粗利益)	355	343	341	△ 1	
3	資金利益	317	309	310	△ 1	・貸出金利息 △15億円 ・有価証券利息・配当金 17億円 ・預金利息 0億円
4	役務取引等利益	34	33	31	△ 1	
5	その他業務利益	1	9	△ 3	△ 13	
6	経費 (除く臨時処理分)	269	272	263	△ 9	
7	人件費	148	145	141	△ 4	・退職給付費用 △3億円
8	物件費	108	110	106	△ 4	・預金保険料 △6億円
9	税金	12	16	16	△ 0	
10	業務純益 (一般貸倒引当金繰入前)	84	78	74	△ 3	
11	一般貸倒引当金繰入額	-	-	△ 14	△ 14	
12	業務純益	84	78	89	10	
13	国債等債券損益 (5勘定戻)	△ 1	8	△ 3	△ 11	・債券売却益 2億円 ・債券売却損 14億円
14	(コア業務純益)	85	70	78	7	
15	臨時損益	△ 3	14	△ 11	△ 25	
16	株式等損益 (3勘定戻)	12	13	11	△ 2	
17	不良債権処理額	-	-	△ 18	△ 18	
18	ソフトウェア一括償却	△ 4	△ 5	△ 5	△ 0	
19	(信用コスト)	△ 5	△ 17	3	21	・一般貸倒引当金戻入の減少 8億円 ・個別貸倒引当金繰入の増加 7億円 ・偶発損失引当金繰入の増加 4億円
20	経常利益	80	92	78	△ 14	
21	当期純利益	49	56	52	△ 4	

コア業務粗利益[=業務粗利益-債券5勘定戻]

コア業務純益[=業務純益(一般貸倒引当金繰入前)-債券5勘定戻]

資産・負債の状況

(単位:億円)

【単体】	14/3期	15/3期	16/3期	15/3期比
1 現金預け金	1,382	1,393	1,046	△ 346
2 コールローン	37	21	27	5
3 有価証券	10,957	11,608	11,490	△ 117
4 貸出金	16,396	16,583	16,843	260
5 資産の部合計	29,281	30,189	29,917	△ 272

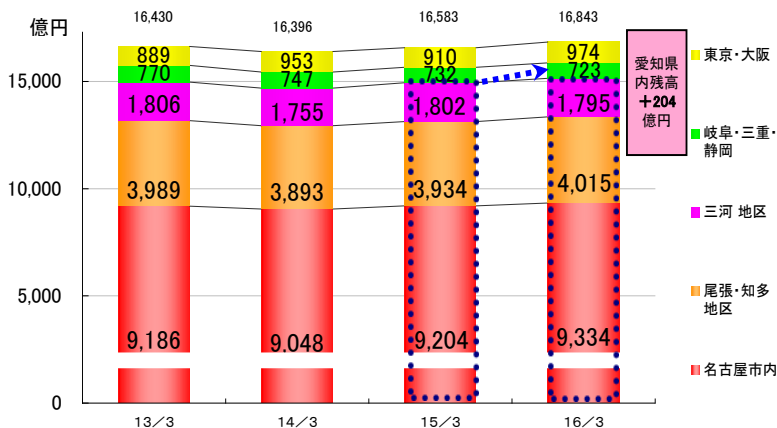
・中小企業等(個人
含む)貸出金
+163億円
・大企業・中堅企業
貸出金
+96億円

6 預金	25,953	26,408	26,646	238
7 負債の部合計	27,325	27,924	27,711	△ 212
8 資本金	180	180	180	0
9 剰余金	1,252	1,312	1,357	44
10 その他有価証券評価差額金	451	696	590	△ 106
11 自己株式	△ 7	△ 7	△ 7	△ 0
12 純資産の部合計	1,955	2,265	2,205	△ 60

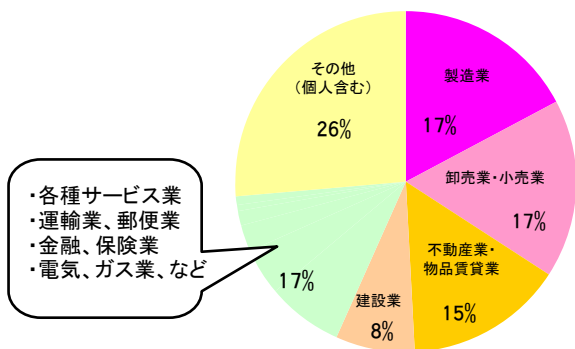
・流動性預金
+149億円
・定期性預金
+88億円

貸出金の状況

地区別貸出金残高

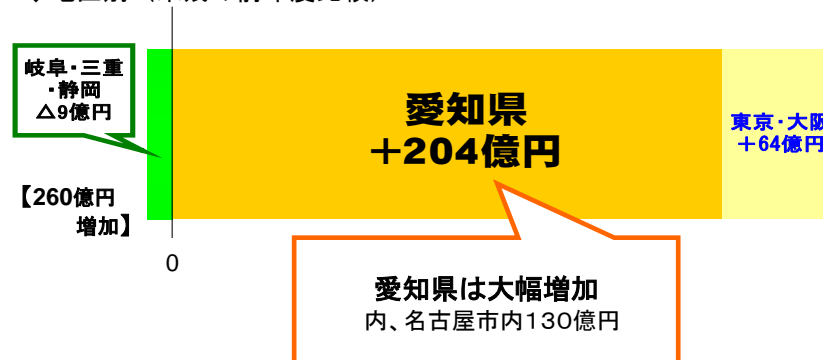


業種別残高比率

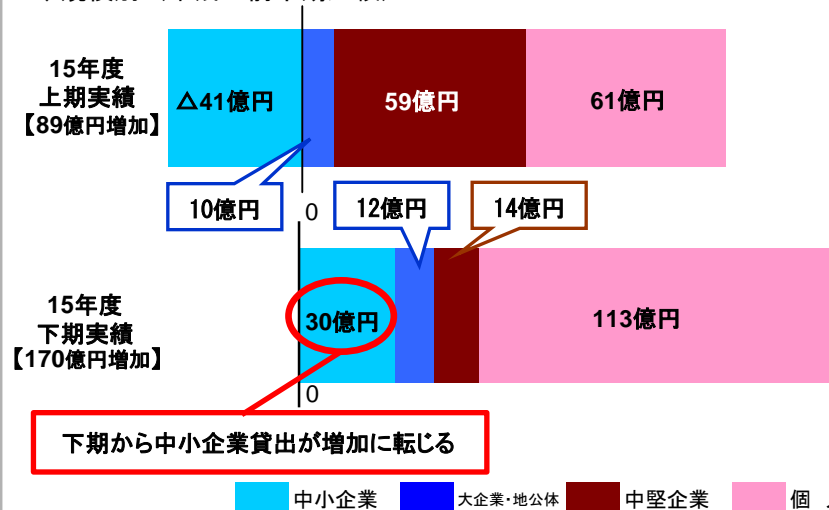


地区別・規模別貸出金増減額

◇地区別 (末残の前年度比較)

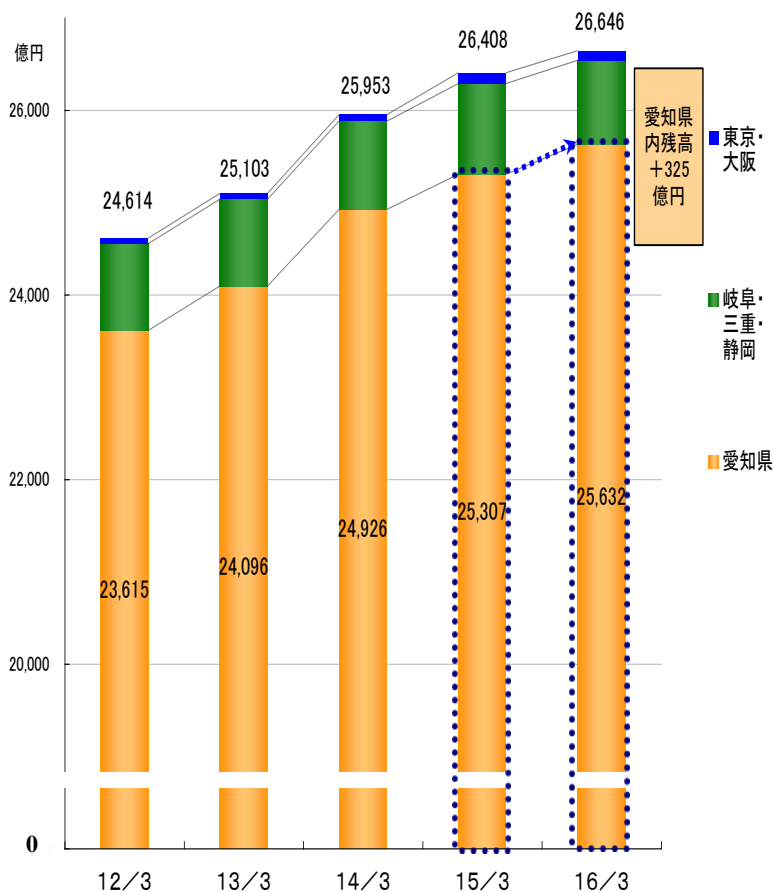


◇規模別 (末残の前半期比較)

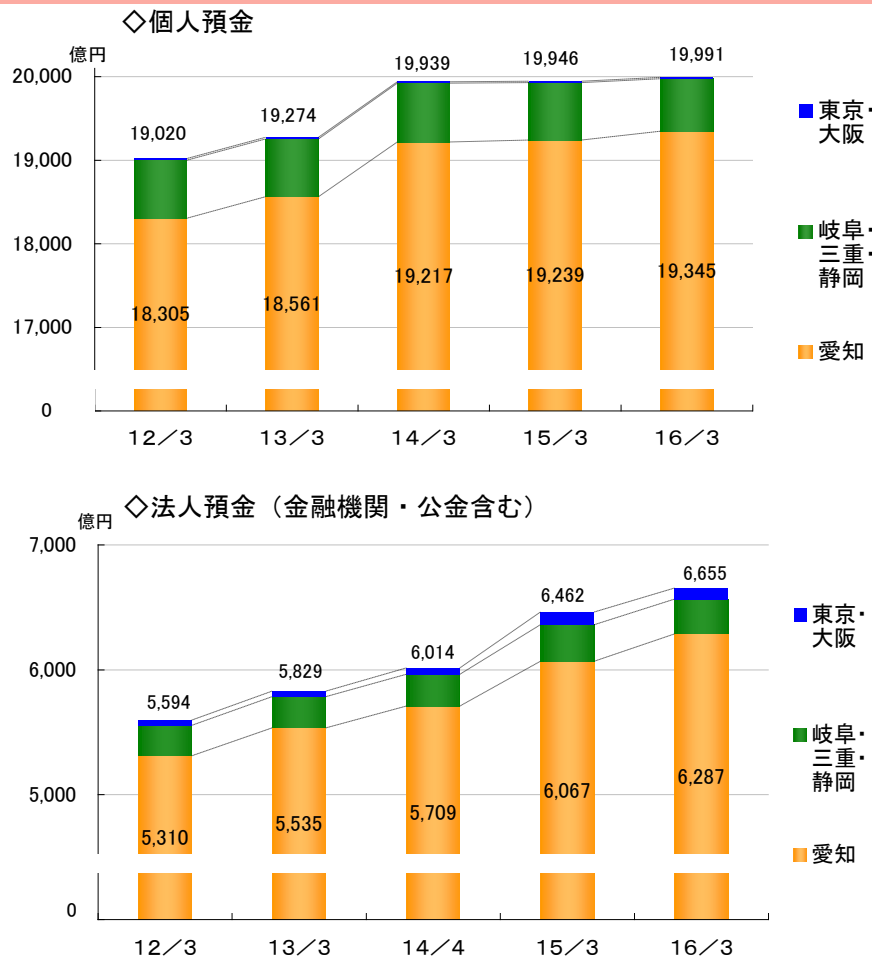


預金の状況

地区別預金残高



個人・法人別預金残高（地区別）



利鞘の状況

総資金利鞘の推移

【当行】

単位：%

		14/3	15/3	16/3	15/3比
資金運用利回	A	1.29	1.21	1.20	△ 0.01
	貸出金利回	1.41	1.31	1.20	△ 0.11
	有価証券利回	1.10	1.05	1.20	0.15
資金調達原価	C	1.11	1.08	1.03	△ 0.05
預金等利回	D	0.06	0.05	0.05	0.00
	経費率	1.04	1.03	0.98	△ 0.05
預貸金粗利鞘 (B-D)		1.35	1.26	1.15	△ 0.11
預貸金利鞘 (B-C)		0.30	0.22	0.16	△ 0.06
総資金利鞘 (A-C)		0.18	0.13	0.17	0.04

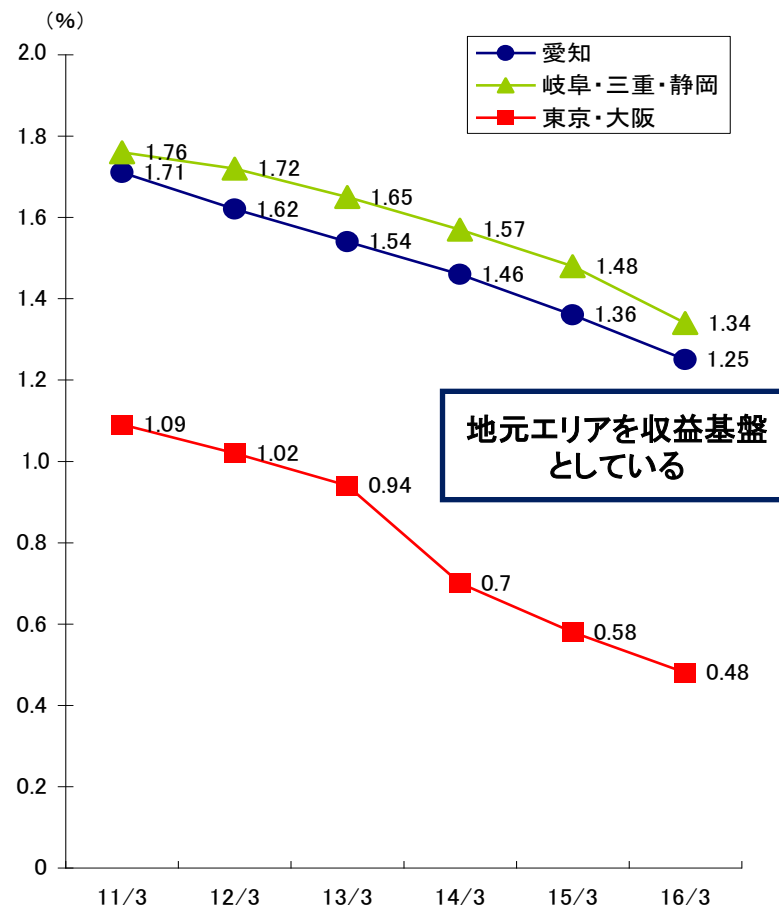
【東海3県の地銀 総資金利鞘推移】

単位：%

	14/3	15/3	16/3	15/3比
愛知銀行	0.18	0.13	0.17	0.04
A 行	0.09	0.02	0.03	0.01
B 行	0.13	0.13	0.11	△ 0.02
C 行	0.12	0.08	0.08	0.00
D 行	0.14	0.12	0.08	△ 0.04
E 行	0.17	0.14	0.07	△ 0.07
F 行	0.11	0.14	0.14	0.00
G 行	△ 0.12	△ 0.11	△ 0.10	0.01

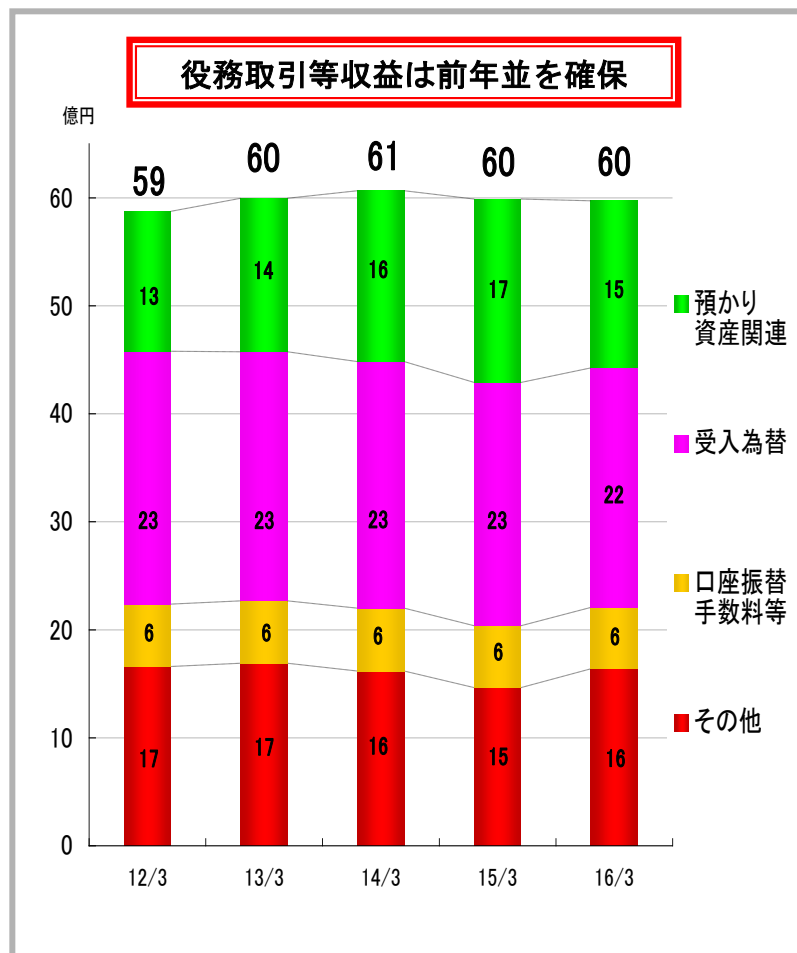
東海3県に本店を置く地方銀行8行の中で、「総資金利鞘」と「その改善幅」は優位にある。

地区別貸出金平均約定金利

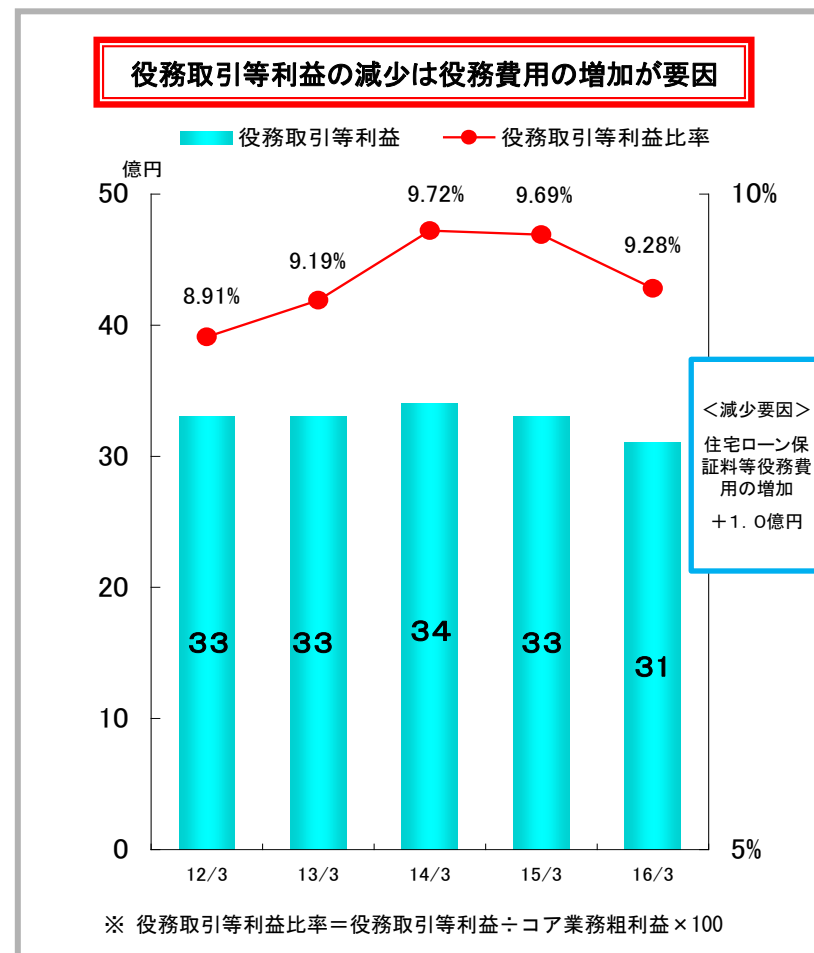


役務取引等収益の状況

役務取引等収益の推移

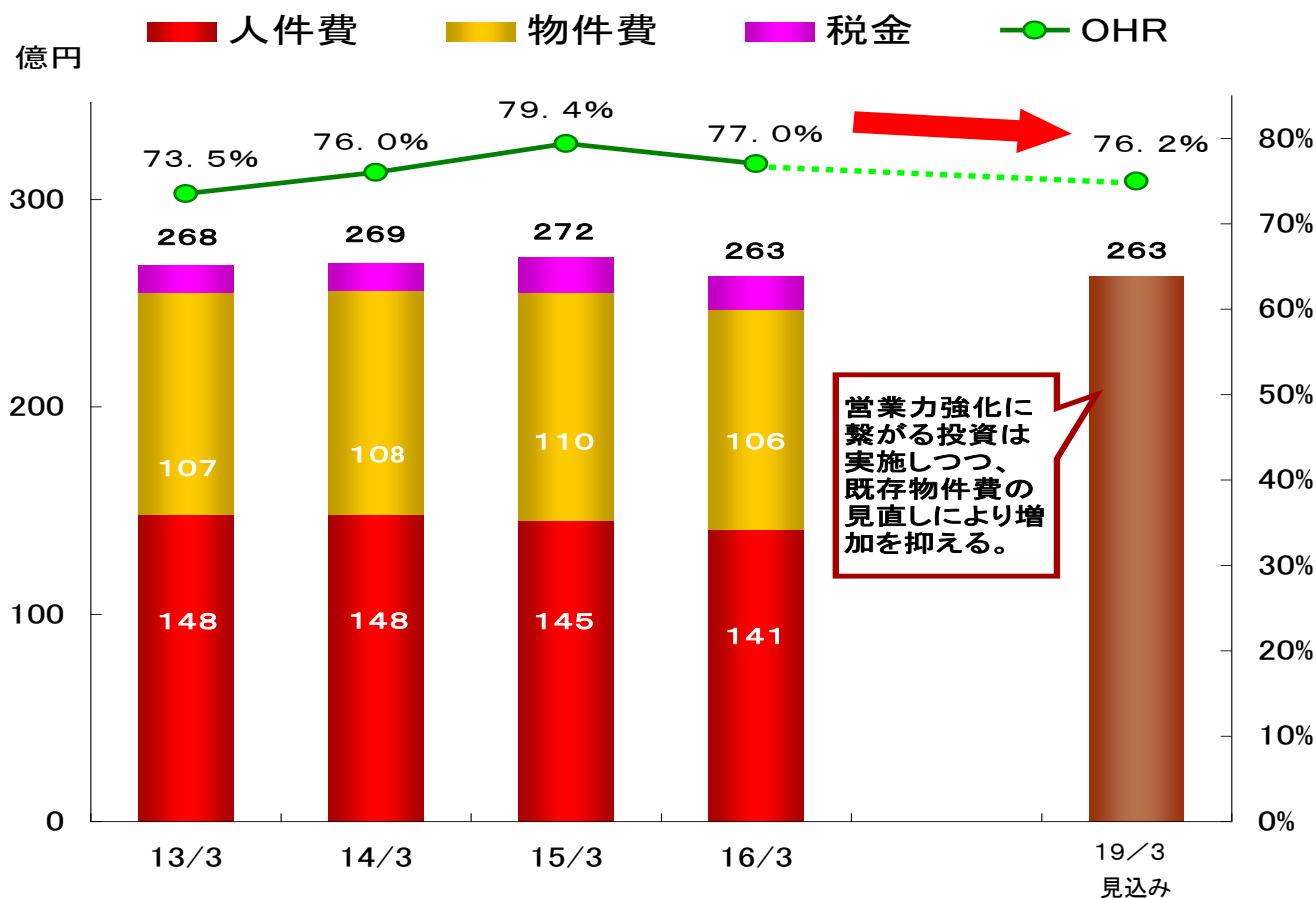


役務取引等利益の推移



経費およびOHR

経費の増加は抑制



経費の増加を抑制し、業務粗利益を増加させることでOHRの低下を目指す

営業力強化に繋がる投資は実施しつつ、既存物件費の見直しにより増加を抑える。

$$OHR = \{ \text{経費} \div (\text{業務粗利益} - \text{債券5勘定戻}) \} \times 100$$

有価証券の状況(1)

- ・ 量的質的金融緩和による国内金利低下等の市場環境を踏まえ、国内債券から外債投信を主体に資金シフトを実施。
- ・ 評価損益は、株式相場下落や為替相場の円高を主因として173億円減少。

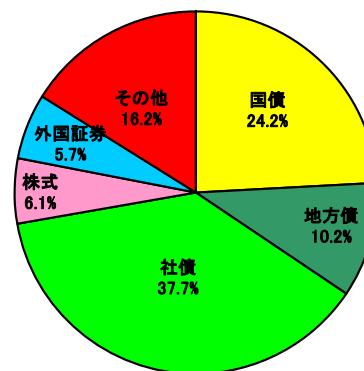
ポートフォリオ残高（取得原価ベース）及び評価損益の推移

	16/3期		前期比	
	取得原価	評価損益	取得原価	評価損益
1 株式	644	+587	+67	△140
2 国内債券	7,678	+189	△572	+12
3 国債	2,582	+82	△420	+3
4 うち、変動利付国債	494	+4	△186	△11
5 地方債	1,081	+29	△25	+0
6 社債	4,014	+77	△127	+8
7 うち、公社公団債	2,177	+70	△181	+7
8 外国証券	606	+1	△48	△3
9 円建外債	59	+0	△10	△1
10 ユーロ円債	137	+0	△8	+0
11 外貨建外債	410	+0	△30	△3
12 その他	1,721	+61	+606	△43
13 J-REIT	100	+43	+8	△6
14 投資信託	1,615	+18	+598	△36
15 うち、外債投信	1,290	+15	+416	△25
16 合計	10,651	+839	+55	△173

単位：億円

国内債券を
投資信託へ
シフト

ポートフォリオの構成

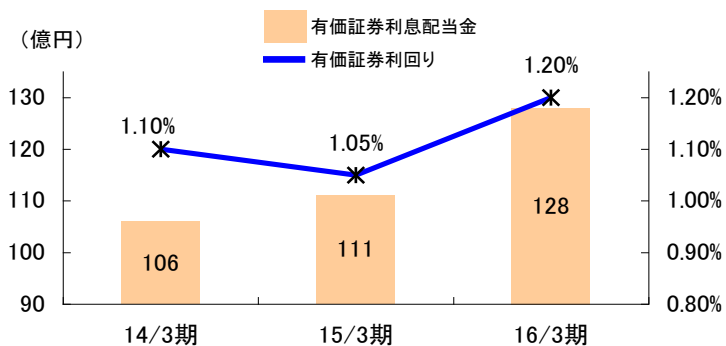


科目別の残高推移の状況

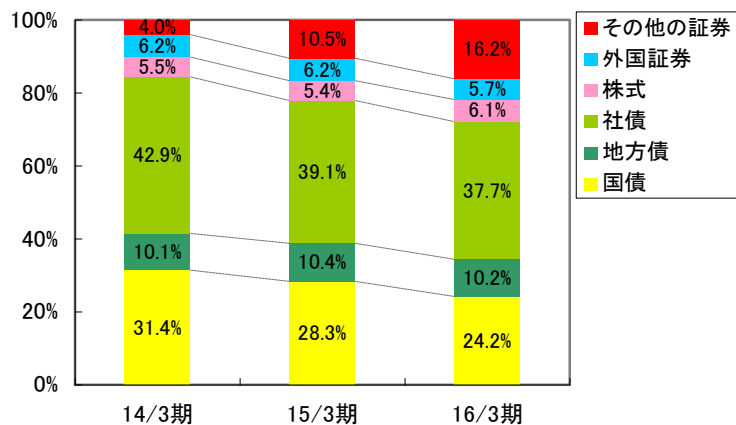
株式	… 主として配当収益獲得を目的とした投資と退職給付信託拠出株式の返還に伴い株式が増加
国内債券	… 国債及び社債（公社公団債・事業債主体）を削減
外国証券	… 円建外債及びユーロ円債は、残高が減少 外貨建外債は、為替の円高を主因に減少
その他	… 外債投信を主体に積み増し

有価証券の状況(2)

有価証券利息配当金と有価証券利回り推移



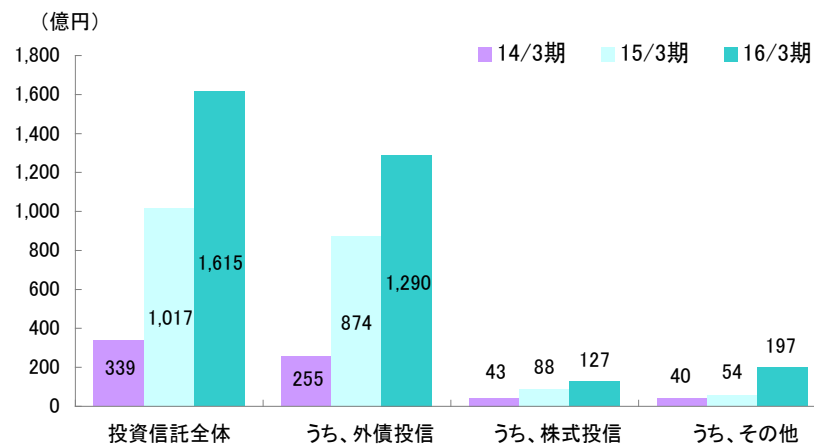
ポートフォリオの構成比率推移



<ポートフォリオの構成比率を見直す>

- ・国内債券の償還資金等を投資信託にシフト
- ・外債投信を主体に残高を積み増し

投資信託残高推移



(単位:億円)

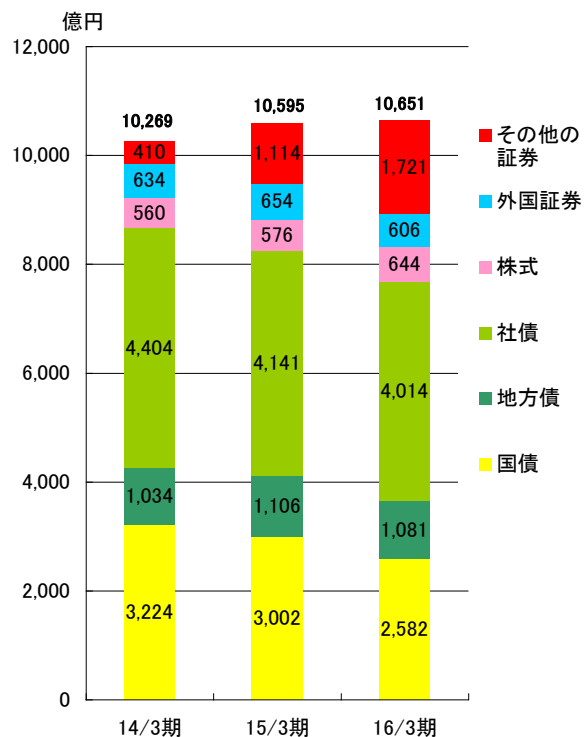
	14/3期	15/3期	16/3期	15/3期比
投資信託全体	339	1,017	1,615	+598
うち、外債投信	255	874	1,290	+416
うち、株式投信	43	88	127	+39
うち、その他	40	54	197	+143

有価証券運用戦略

◇今年度の運用スタンス

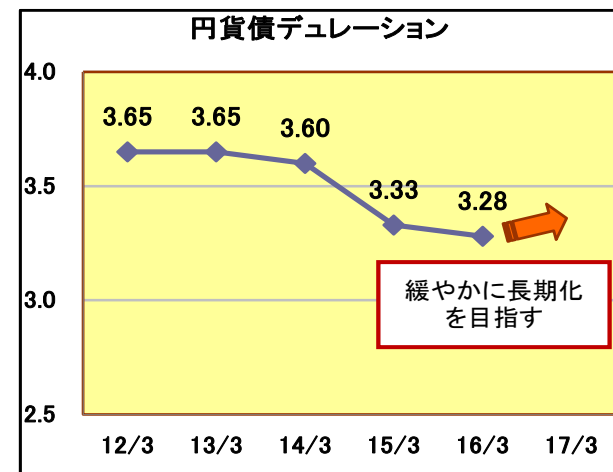
- ・ 市場環境に留意しつつ、引き続き国内債券から投資信託等へ資金シフト（収益獲得手段の多様化とリスク分散）
- ・ 預貸金残高の推移や状況を考慮して、投資環境を踏まえた適切な投資配分
- ・ マイナス金利導入による市場金利の低下を踏まえ、円貨建債券のデュレーションは緩やかに長期化を目指す

有価証券残高と今後の残高見込み



	残高見込み
株式	→
国債	→
地方債	→
社債	→
外国証券	→
うち、円貨債	→
うち、外貨債	→
その他の証券	→
うち、投資信託	→
うち、J-REIT	→
有価証券全体	→

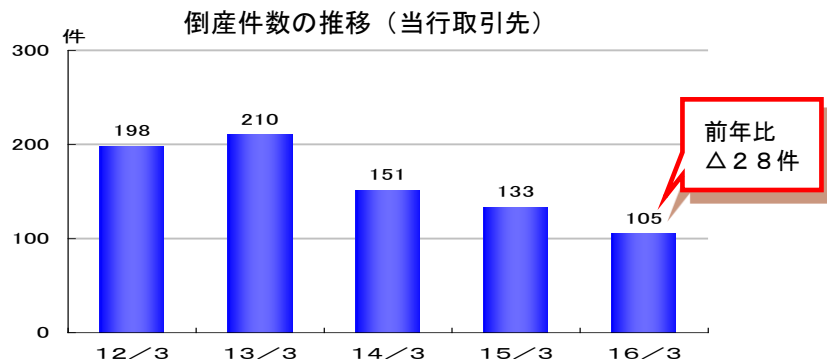
デュレーション



今年度のデュレーション
3.2~3.6程度で調整

信用コストの状況

倒産件数は減少



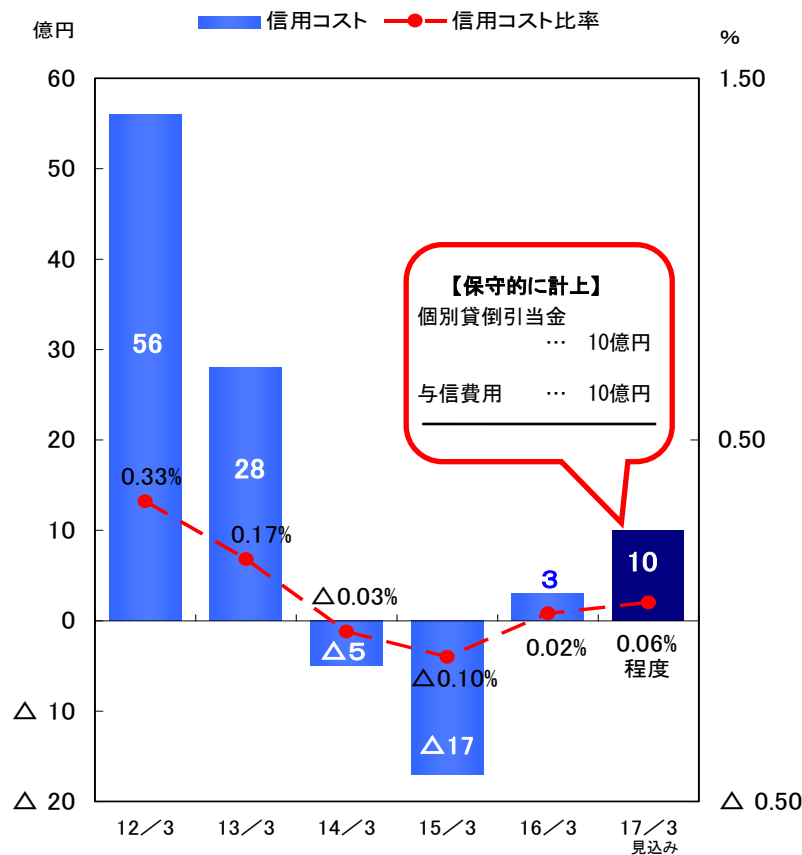
景気後退期も見据え、16/3期より破綻懸念先の引当率を変更し、予防的に信用コストを積み増し

信用コストの内訳

	15/3	16/3	15/3期比
一般貸倒引当金繰入額	△22.5億円	△14.5億円	+8.0億円
不良債権処理額	5.4億円	18.4億円	+13.0億円
個別貸倒引当金繰入額	7.4億円	15.2億円	+7.7億円
偶発損失引当金繰入額	△2.0億円	2.5億円	+4.6億円
与信関係費用	△17.2億円	3.9億円	+21.1億円

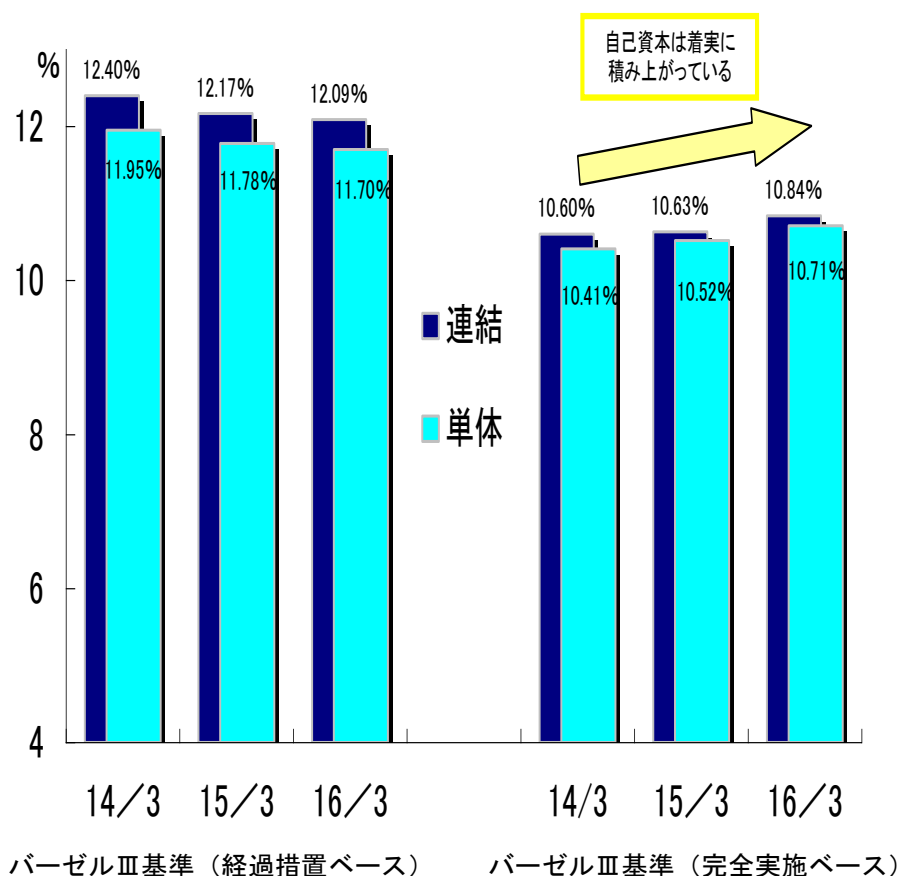
債務者区分の引下げ、
引当率の引上げ等 19.5億円
回収・債務者区分引上げ △3.7億円

信用コストの推移と見込み



自己資本の状況

自己資本比率(経過措置ベース)は、連結12.09%、単体11.70%と高い水準を維持

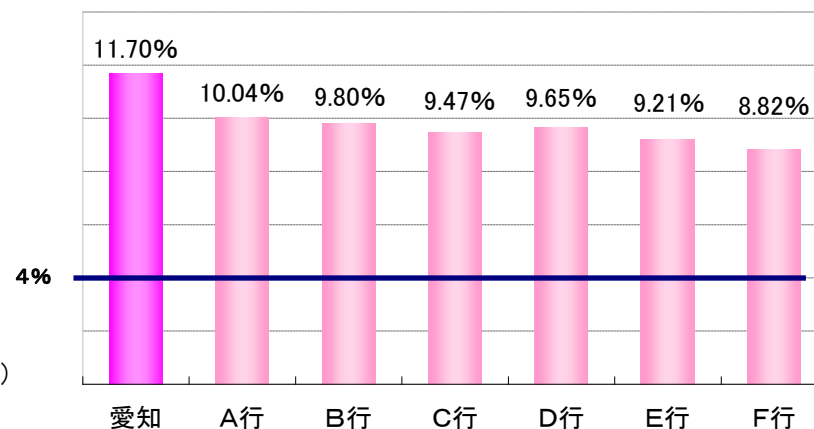


自己資本比率		経過措置ベース	完全実施ベース
連結	14/3	12.40%	10.60%
	15/3	12.17%	10.63%
	16/3	12.09%	10.84%
単体	14/3	11.95%	10.41%
	15/3	11.78%	10.52%
	16/3	11.70%	10.71%

自己資本比率は当地区で高位

東海3県地銀(16/3期・国内基準行)実績

<単体>



資本政策

株主還元の様況

【単体】	14/3	15/3	16/3	17/3(予想)
配当額①(百万円)	759	867	867	867
当期純利益②(百万円)	4,919	5,674	5,245	4,400
配当性向①/②	15.4%	15.3%	16.5%	19.7%
当行株価(3月末)	5,320円	6,140円	4,715円	
配当利回	1.316%	1.302%	1.696%	
P B R(倍)	0.29	0.29	0.23	
P E R(倍)	11.7	11.7	9.8	
R O E(%)	2.58	2.68	2.34	

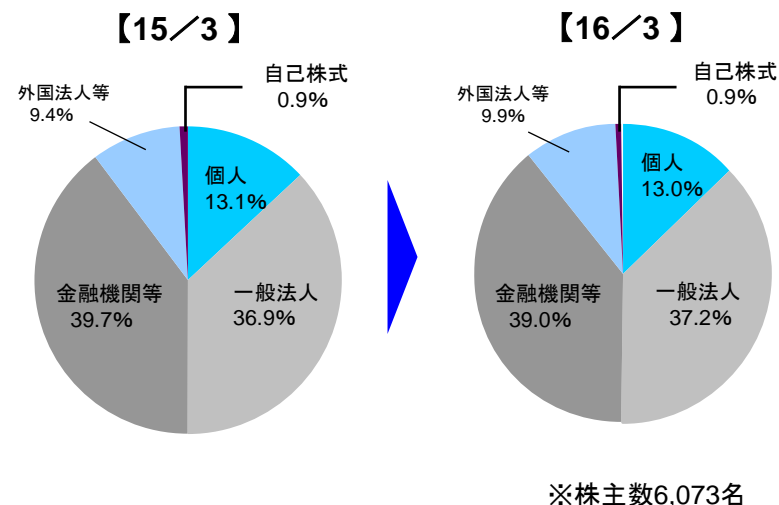
長期安定的な配当を実施

単位：円

<1株当たりの配当金>

	08/3	09/3	10/3	11/3	12/3	13/3	14/3	15/3	16/3	17/3 (予想)
中間	25	35	35	45	35	35	35	35	40	40
期末	45	35	35	35	35	35	35	45	40	40
年間	70	70	70	80	70	70	70	80	80	80

株主構成 (株式数ベース)



個人株主の増強

- ◇ 株主優待制度の充実（年度末に200株以上を継続して1年以上保有した株主にカクギガ3,000円相当、**16/3期決算より導入**）
- ◇ 株主優待定期預金・外貨定期預金の取扱い
- ◇ 個人投資家向け会社説明会を随時開催

第9次中期経営計画の総括

- ✓ コア業務純益は計画通り達成しなかったものの、経常利益と当期純利益は計画達成
- ✓ 貸出先数は着実に増加
- ✓ 貸出金は中小企業貸出が伸びず計画通り達成しなかった。しかし、中小企業貸出は徐々に増加に転じる。

◇ 第9次中期経営計画（13／4～16／3）

	<単体>	当初目標	16／3期	当初目標比
1	主要目標	コア業務純益(億円)	95	78 ▲ 16
2		経常利益(億円)	50	78 28
3		当期純利益(億円)	30	52 22
4		自己資本比率(%)	11.50	11.70 0.20
5	その他目標	貸出金期中平残増加額(億円)	600	240 ▲ 359
6		新規貸出先開拓(先)	6,000	5,991 ▲ 9
7		貸出先数増加(先)	400	462 62
8		経営支援関連手数料(百万円)	300	259 ▲ 41

【規模別の平均残高推移】

単位: 億円

	13／3期	14／3期	前年比	15／3期	前年比	16／3期	前年比	13／3期比
大企業・中堅企業	2,296	2,264	▲ 32	2,291	27	2,240	▲ 51	▲ 56
中小企業	9,188	9,136	▲ 52	9,150	14	9,221	71	33
個人	4,511	4,588	77	4,684	96	4,774	90	263
合計	15,995	15,988	▲ 7	16,125	137	16,235	110	240

(地公体向け、外為・支払承諾を除く)